

# 公正中立な検査認証を継承

## 日本ガス機器検査協会・新理事長 中西 英夫氏に聞く

日本ガス機器検査協会(JIA、東京)の新理事長に中西英夫氏がこのほど就任した。同協会は1967年の設立以来、ガス機器検査認証で培った安全品質確認業務のノウハウを生かし、ISO審査認証や、土壌汚染調査・対策工事、森林認証、木質バイオマス由来証明など多様な認証事業を展開している。中西理事長に、今後の方針などを聞いた。



「人材育成を第一に、環境の変化や新たな課題にもしっかり対応していきたい」と話す中西理事長

**<プロフィール>**1979(昭和54)年一橋大学経済学部卒、同年通商産業省(現経済産業省)入省。98年中部通商産業局(現中部経済産業局)総務企画部長などを経て、2007年ビジネス機械・情報システム産業協会専務理事。今年6月から現職。東京都出身。

—就任の抱負から。  
「公正中立な検査を積み重ねてきた協会の歴史を引き継ぎ、お客さま、社会に対して、これまで以上に役割に立てる組織にしていきたい。これまでもガス機器の性能が高度化する中、職員が安全、安心にひたむきに取り組む、技術の向上に対応してきた。こうした人材こそが協会の宝であり、今後も人材育成を第一に、環境の変化や新たな課題にもしっかり対応したい」

—事業方針は。  
「2017年の創立50周年を機に若手職員が中心となり『未来ビジョン』を策定した。グローバル化、顧客満足強化、ブランド強化、新サービス開拓の四つの柱

# 安全、安心ニーズに対応

## グローバル化や顧客満足強化へ

を掲げ、取り組みを進めている。グローバル化では、ガス機器メーカーが海外に

知っていただけのような情報発信が大事と考えている。協会ホームページを刷新に議論していく」

「昨春リニューアルオープンした名古屋検査所は、製品の電磁波の影響を検査する大型の10対法電波半無響室や、環境試験室を装備している。試験用のさまざまガスと混合して作り、水、電気とともに使用できるのも大きな特徴。検査設備はガス機器メーカーや他の企業にもお貸ししており、製品の技術開発などにぜひ活用していただきたい」

輸出する際にその国の検査などを日本で代行できるように海外機関との連携を行うっていく。顧客満足強化では、ガス機器検査の結果データをデジタル化して早期に提供するなど業務の合理化を図っている」

「ブランド強化では、家庭用ガス機器や厨房機器を使用する一般消費者や事業者の方々にも協会の活動をアを若手職員を中心に出し

「中部地区はガス機器メーカーのお客さまが多く、加えて日本のモノづくりを先導している大きな経済圏でもある。今年5月には土壌汚染調査・対策工事を行う環境ソリューションセンターの名古屋営業所を小牧市の名古屋検査所内に新設した。より近いところから地域の声を聞いて新たな課題やニーズに添えていきたい」

新したほか、今夏には小学生を対象に夏休みの宿題・自由研究をお手伝いするイベントに初出展した。ブースには3日間で約600人が訪れ、身近で便利なガス機器の安全を担保する認証マークを紹介できた。また、

「中部地区での展開は、着しているかどうかを見るのが重要なポイントとなる。グローバル化で企業の海外取引が増す中、国際基準、ルールへの取り組みを行うことで、ビジネスもしやすくなる」